

農林水産大臣賞受賞

共助共生社会の実現により、農地を守る、地域を守る

受賞者 **平生産管理組合**
(長野県長野市)
たいらせいさんかんりくみあい

■ 地域の沿革と概要

長野市は、日本のほぼ中央、長野県北部に位置し、妙高戸隠連山国立公園をはじめとする美しい山並みに抱かれ、県内有数の長野盆地の中央に詩情豊かな千曲川と日本アルプスの清流を集めて流れる犀川があり、河川の流域には地力の高い沖積土壌が広がっている。

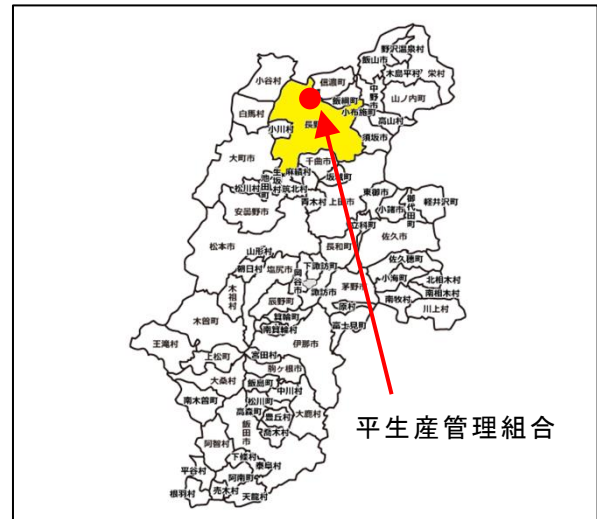
農地は、標高 300m から 1,000m まで低地から高地にかけて広がっており、地域特性を活かした多品目の農産物が生産されている。市内の 7 割を占める中山間地域には、棚田などの田園風景が広がるなど、美しい景観に恵まれている。市街地は、古くから善光寺の門前町として発展してきた。善光寺は、本田善光により阿弥陀如来像が安置されたのが始まりとされており、以来、善光寺を中心に旅籠・商家などが集まり、北国街道の宿場町を兼ねた商業都市が形成されている。

■ むらづくりの概要

1. 地区の特色

芋井地区は、市中心部から北西に位置し、飯縄山の急勾配一

第 1 図 位置図



第 1 表 地区の概要

事項	内容
地区の規模	集落の集合体
地区の性格	機能的な集団等
農家率 (内訳)	7.8%
	総世帯数 150,414 戸
	総農家数 11,782 戸
専業別農家数 (内訳)	専業農家 2,007 戸
	1種兼業農家 537 戸
	2種兼業農家 2,616 戸
農用地の状況 (内訳)	総土地面積 83,481ha
	耕地面積 8,120ha
	田 2,280ha
	畑 5,840ha
	耕地率 9.7%
	農家一戸当たり耕地面積 0.7ha

注：市全体の数値（H27 年）
専業別農家数は販売農家の内数のため、総農家数と一致しない

帯に広がる地域である。大正時代に飯綱高原の開拓が始まり、昭和 30 年代後半から別荘地の開発など、観光地として開発整備が進められ、昭和 29 年に長野市と合併して現在に至っている。

産業は、農業と観光が主力で、米、りんご及びキャベツ・大根などの野菜類の栽培が盛んである。農家経営は、第二種兼業農家が主体で、農業就業者の減少と高齢化、野生鳥獣被害による耕作意欲の減退から農地の荒廃化、さらには耕作放棄地の増加が課題となっている。芋井地区の人口は、男性 1,838 名、女性 1,820 名の総数 3,658 名（2015 年国勢調査）であり、地域全体で少子・高齢化が進んでいる。このため、生活道路の草刈等の共同作業への参加などが困難な世帯が年々増加しており、自治会の再編検討や、コミュニティ活動の一層の促進が求められている。

2. むらづくりの基本的特徴

(1) むらづくりの動機、背景

長野市芋井地区は、リンゴ、水稻、大豆などを主体とした農業が盛んな地区であるが、標高 700m～800mの急傾斜地の多い中山間地であり、生産基盤が整備されておらず、農道等の耕作条件が不利であることから、耕作放棄地の発生が懸念され始めていた。そのような中で、平成 12 年に新たな制度として始まった「中山間地域等直接支払制度」を導入し、「地域内の耕作放棄地の発生を防止し、将来にわたって、持続的な農業生産活動を行い、地域の活力を増進するため、組合員の農業生産についての協業等を図ることにより、その生産性を向上させ、組合員の共同の利益を増進させること」を目的に活動する団体として、平成 12 年に「平生産管理組合」を設立し、活動している。

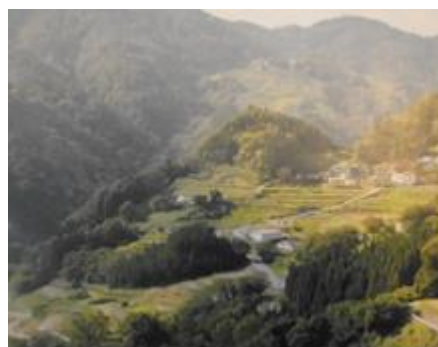


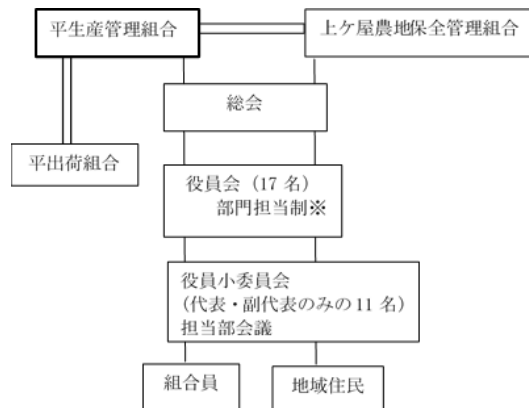
写真 1 「芋井地区」全景

(2) むらづくりの推進体制

ア 当該集団等の組織体制、構成員の状況

平生産管理組合は、組合長を中心に、4 集落の農業者 38 名で構成されている。体制は、役員全員参画協働による事業分担制をとっており、代表 1 名、副代表 10 名を含む、役員 17 名で構成されている。各栽培品目担当（水稻、大豆、ミニトマト）、鳥獣害、出荷販売、地区、農道・水路、共同機械などを役員が担っている。

第2図 むらづくり推進体制図



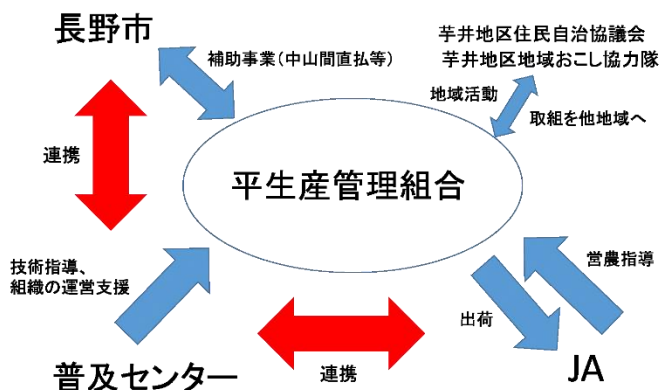
- ・ 名称：平生産管理組合
- ・ 設立年：平成 12 年
- ・ 役員数：17 名
- ・ 会員数：38 名

イ 当該集団等と連携してむらづくりを行う他の組織、団体及び行政との関係

長野市、長野県農業改良普及センター、JA ながのと連携し活動を行っている。長野市からは、日本型直接支払制度（中山間地域等直接支払制度や多面的機能支払制度）や市独自の補助事業の紹介や申請支援を受け、水稻、大豆、ミニトマト等各品目の栽培技術については、農業改良普及センターや JA の担当者から指導を受けて活動している。

また、芋井地区住民自治協議会や芋井地区地域おこし協力隊とも、地域活動を通じて、芋井地区の取組を他集落へと波及を図りながらむらづくりへの活動を進めている。

第3図 むらづくり連携図



■ むらづくりの特色と優秀性

1. むらづくりの性格

高齢化等で耕作が継続できない農地を共同作業で支援する独自の「営農支援規定」を定めるなどの活動により、中山間地の遊休農地の発生を防止している他、県・市・地区住民自治協議会などとの連携によって、生産物「大豆」の加工品販売や農家民泊、県外集落営農組織との交流を通じて、中山間地域の活性化を担っている。

2. 農業生産面における特徴

(1) 耕作放棄地の解消及び発生抑制

平生産管理組合では、個人の農地の他、高齢のため管理できなくなった農地を借り、大豆や米、ミニトマト等を約 4.5ha（大豆：約 3.9ha、水稲：約 0.5ha、ミニトマト：約 0.1ha）共同耕作し、耕作放棄地の発生を未然に防止している。平成 29 年の実績で、収穫販売量はそれぞれ、水稲：3,010 kg、大豆：4,825 kg、ミニトマト：738 kg である。



写真 2 協業による
「ミニトマト栽培」

また、平成 18・19・23 年には、荒れ地を伐根して計約 1.2ha の面積を解消し、農作物を栽培するなど、耕作放棄地の発生抑制にも大きく寄与している（平成 27 年の芋井地区の耕作放棄地面積は 65ha と平成 12 年に比べ 22% 減少）。

また、山間地域である芋井地区は、イノシシやシカの被害に悩まされており、鳥獣害対策にも注力し、市補助金を活用して協定地区内に電気柵 5 か所、爆音機を 4 か所設置し、またそのメンテナンスを継続して実施しており、設置後は、被害を半分程度に抑えることができ、野生鳥獣に負けないむらづくりをすすめている。

（2）農産物加工商品による地域の P R

収益向上に向け付加価値の高い農業生産活動の取組として、共同生産した大豆の一部を豆菓子「芋井の豆っこ」として平成 25 年から販売している。

当初は、規格外の大豆の活用が目的であったが、素朴な味わいと芋井小学校の児童がデザインした親しみやすいデザインも手伝って、年々知名度も広まってきており、地域を P R する豆菓子としてのブランド化を目指している。



写真 3 大豆加工菓子
「芋井のまめっこ」

3. 生活・環境整備面における特徴

（1）コミュニティ活動の強化、都市住民との交流等

① 営農支援規定によるセーフティネットの構築

平成 17 年度から、平生産管理組合では独自に「営農支援規定」を設けており、組合員の中で高齢化やケガなどにより農作業の補完が必要な者に対し、共同機械を利用した支援を行っている。役員会や総会を開催する際には、営農支援規定の話を必ず行い、高齢化等の事情で作付けが厳しい、という人は早めに組合へ相談してもらうよう周知を図っている。

② 都市住民との交流

平生産管理組合では、地元の子どもたちだけでなく、都市住民との交

流として農家民泊の受け入れも展開している。芋井地区住民自治協議会が軸となり、グリーン・ツーリズムの一環として平成 22 年から組合内で 10 戸が受け入れを行っている。中でも、東京都の中学校とは、農家民泊を通じて芋井の農業に触れてもらう一方で、東京の学校で文化祭が開催される際には、組合員自らが足を運び芋井の農産物を販売や、伝統芸能の踊りを披露し、地域以外の人に、芋井という農村・農業の素晴らしさを知ってもらう機会を提供している。



写真 4 「農家民泊」による
農業体験・交流

(2) 女性の社会参画及び定住促進

①女性の社会参画

平生産管理組合では、現在、役員としてミニトマト担当と出荷販売担当の 2 名を登用している。役員会では、女性ならではの視点を活かし、積極的に経営改善に参画している。また、水稻の育苗や大豆の脱穀・選別、ミニトマトの収穫・調整の共同作業には、参加者全体の半数以上を女性が占めるといった、女性にとってもやりがいのある場となっている。細かいところに目が行き届く女性の意見をより取り入れようと、「今後は役員の女性数をもっと増やしていきたい」と組合は考えている。

②地域への定住促進

平成 27 年から平成 29 年までの 3 年間、「農業を勉強したい」という思いを受けて、芋井地区住民自治協議会と連携し後継者・定住者を募る活動を行う中で、当地域に 2 名の地域おこし協力隊が活動することとなった。

この 2 名の方に対して、平生産管理組合が、草刈り、泥上げ、農道・水路等の管理活動や、水稻やミニトマトの農作業の指導役を担い、その甲斐もあって、地域おこし協力隊の任期満了後も 2 名とも、芋井地区の農家、観光施設に就職し、定住している。